

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02264

研究課題名（和文）企業の社会的責任とソーシャル・イノベーション視点からのロシアの障害者雇用問題研究

研究課題名（英文）Employment of Persons with Disabilities in Russia from CSR and Social Innovation Perspective

研究代表者

小西 豊（KONISHI, YUTAKA）

岐阜大学・地域科学部・准教授

研究者番号：10303489

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：2020年春からのCOVID-19感染拡大、2022年2月24日からのロシアによるウクライナへの特別軍事作成の開始などにより、本研究課題は文献研究にとどまったままであり、当初計画していた実地調査をまったく実施できないまま、本研究課題の期間満了を迎えることになった。2021年度の実施状況報告書で記したように、障害者と非障害者との社会的結束の実践的課題、制度的課題、具体的方策を探求してきたが、現場での参与観察、ヒアリング調査を実施できなかったため、本研究課題は理論的枠組みの検討のみで終了を迎えることになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義や社会的意義は「企業の社会的責任とソーシャル・イノベーション視点からのロシアの障害者雇用問題研究」をテーマに、現在ロシアで創出しつつある社会的企業と社会的企業家の行動と機能の経営、経済的分析を通じて、ロシアの国家官僚主導型経営システムのノーマリゼーション可能性を探求することを目的としたことにある。また、ロシア版CSR、ソーシャル・イノベーションの観点から、障害者雇用をめぐる制度研究と雇用政策を研究したこと、これまでのロシア版CSRの「かたち」とは異なるソーシャル・イノベーション・タイプのCSRに着目したことに学術的意義を見出せる。

研究成果の概要（英文）：Due to the spread of COVID-19 infection from the spring of 2020 and the start of Russia's creation of a special military force against Ukraine from February 24, 2022, this research topic has remained as a literature research, and the field survey originally planned. The period of this research project has come to an end without being able to carry out any of the above. As described in the 2021 implementation status report, we have explored practical issues, institutional issues, and specific measures for social cohesion between persons with disabilities and non-disabled persons. This research project ended only with the examination of the theoretical framework.

研究分野：比較社会福祉経営システム論

キーワード：ロシア 障害者 障害者雇用 ソーシャル・インクルージョン インクルーシブ・マネジメント ソーシャル・イノベーション 社会福祉システム 経営システム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

研究分担者として参加した科研費・基盤研究(A)「特別なニーズをもつ子どもへの教育・社会開発に関する比較研究」(2011~2015年、研究代表者・黒田学、立命館大学産業社会学部教授)共同研究プロジェクトに参加した。ロシア・ポーランド・ドイツ・イタリア・スペイン・キューバ・ベトナムにおいて医療、福祉、教育領域における経済的社会的パフォーマンスの現地調査、とりわけ申請者は障害者雇用の観点から共同研究を遂行してきた。この共同研究は、社会学、経営学、経済学、教育学、心理学による学際的研究であり、申請者はこれらの研究活動のなかで本研究課題に着眼し、ロシア企業の障害者雇用問題をCSRとソーシャル・イノベーションの視点で分析する構想をもつようになった次第である。

私は、経済学、経営学の立場からロシアの経済制度、企業システムの研究に取り組んできたのだが、この8年間は社会福祉学、障害学、障害学、心理学の研究者との共同研究からインスパイアされて、企業の障害者雇用に関する学際的研究に興味を持ってきた。日本国内においてロシアの障害者雇用問題を研究者は私のみであり、前人未至の研究分野であった。ロシアにおける企業の社会的責任(CSR)とソーシャル・イノベーションについての国際比較研究は、グローバル化が進展し、ロシアの体制転換から四半世紀経た今日においても、なお世界的に注目されている研究である。当該テーマは国際学会や国際共同研究にも取り上げられ、私も個別に参加してきたが、本研究はこうした先行研究水準のレベルを乗り越えるべく、従前の研究の枠を越える比較経営研究ならびに比較企業論研究なかに、障害者の雇用と社会参加の視点を導入し、「人間の顔をした企業社会システムの理論的構築と施策」を打ち出していきたいと本研究課題を着想した。

2. 研究の目的

本研究は「企業の社会的責任とソーシャル・イノベーション視点からのロシアの障害者雇用問題研究」をテーマに、現在ロシアで創出しつつある社会的企業と社会的企業家の行動と機能の経営、経済的分析を通じて、ロシアの国家官僚主導型経営システムのノーマライゼーション可能性を探求することを目的とした。プーチン政権下のロシアでは、近年ようやく巨大政府系企業のなかから企業の社会的責任(CSR)を意識した経営活動が誕生するようになった。本研究では以下の2つの基軸から研究を遂行してきた。具体的には、第1にロシアにおける義務雇用制度、雇用政策、障害者雇用促進政策などの制度研究を行い(公式制度分析)、第2に保護雇用、福祉的就労の現場(企業、施設)における質的調査(非公式制度分析)を実施し、障害者雇用施策の動向と諸課題を明らかにした。

3. 研究の方法

ロシア版CSR(Corporate Social Responsibility)、ソーシャル・イノベーションの観点から、障害者雇用をめぐる制度研究と雇用政策を研究してきた。本研究の学術的独自性と創造性は以下のように位置づけることができる。つまり、ソーシャル・イノベーションは次の3つのレベルから解決が図られる。第1は国家レベルにおける公共政策である。ここでの主体は政府・行政であり、マクロな制度改革を通して、医療、福祉、教育領域などにおける経済的・社会的パフォーマンスが改善される。第2は市場レベルにおけるビジネス活動である。主体はあくまでもビジネス(企業・NPO)であり、ここではビジネスを通して、多様な社会的課題の解決が目指される。第3はコミュニティレベルにおける社会活動である。市民社会組織が主体となって、コミュニティレベルの市民活動等を通して、多様な社会的課題の解決が図られる。本研究課題では第2レベルの視点から研究遂行する。さらに本研究では、これまでのロシア版CSRの「かたち」とは異なるソーシャル・イノベーション・タイプのCSRに着目し、企業やNPO・NGOなどの障害者雇用の促進、解決などに取り組んでいるロシアの社会的企業家に焦点をあてる。ロシア企業の社会性(社会的課題に取り組みことを事業活動のミッションとすること)、事業性(社会的ミッションをビジネスとして取り組むこと)、革新性(社会的課題の解決に関する新しい商品、サービスの開発、それを提供するための仕組みの開発)という3つの要素から具体的に障害者雇用を位置づけ、ロシア企業の新しい像を析出し、新たな理論分析のフレームワークの探求を行った。

産業構造の高度化に伴って、労働市場における障害者、特に知的障害者、精神障害者は、その持つ労働能力が低位に評価され、経済的効率性の観点から労働市場から排除されやすい点に着眼する。保護雇用型に分類できるロシアの障害者雇用制度について、行政機関、学校教育、一般企業、社会的企業等を対象にインタビュー調査を行い、その実態の解明を目指した。

4. 研究成果

馬頭忠治・小西豊・松本典子「社会的包摂と排除をめぐって」『比較経営研究』(日本比較

経営学会) 第 43 号、2019 年、128 138 頁。

学会報告

2021 年 12 月 18 日(土) 日本比較経営学会西日本部会、小西豊「国家主導型資本主義
の経済的基盤」(オンライン開催)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 馬頭忠治・小西豊・松本典子	4. 巻 43
2. 論文標題 社会的包摂と排除をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 比較経営研究	6. 最初と最後の頁 128 - 138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小西豊
2. 発表標題 国家主導型資本主義と経営システム
3. 学会等名 日本比較経営学会西日本部会（招待講演）
4. 発表年 2021年～2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------